

No. 1

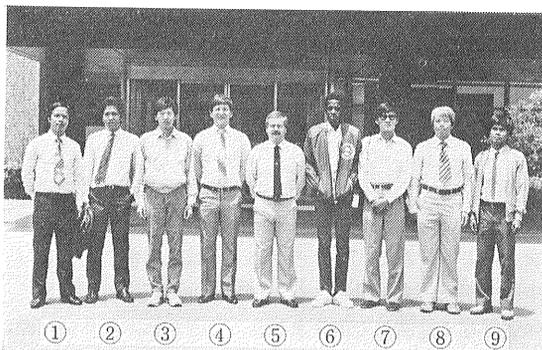
地質調査所の国際協力活動は 年々増加の一途をたどり 国際産業技術研究 (ITIT) 事業をはじめとする 研究協力 アジア太平洋経済社会委員会 (ESCAP) 等国連機関への 専門家派遣や途上国への技術協力など 昨年度の海外渡航者は延65名に達しています。 また海外からの来訪者は 641名を数えるに至っています。

海外地質調査協力室 (海外室) では このように活発な国際活動の内容を 肩の凝らないコラムにして紹介するシリーズ「海外だより」を企画いたしました。 ますます多様化する地質調査所の国際活動の一端を読者の皆さんにお知らせすることができれば幸いです。 (田口)

**沿海鉱物資源探査コースの研修員** 例年より2週間ほどの遅れはあったが 昭和60年度オフショア・コースの集団研修は アジア アフリカ 南米の開発途上国 8か国から9名の研修員を受け入れ 6月17日に開講した。 12月下旬までの6か月間 一般コースの講義と実習 石油探査と遠隔探知の集中コース 約2か月の個別研修などを行うことになるがここでは ことしの研修員の簡単な経歴を紹介しておきたい。

- ① カム (ビルマ) [U En Khan Kham]  
1950年生 マンダレー文理大学物理学科卒 ミヤンマ石油公社勤務の地球物理専門家
- ② リカルド (フィリピン) [Ricardo R. Caringal Jr.]  
1960年生 フィリピン大学鉱山学科卒 鉱山地球科学局勤務の地球物理専門家 海洋調査船エクスプローラー号研究者の一人
- ③ ビチャイ (タイ) [Vichai Assavarittiprom]  
1951年生 チェンマイ大学地質学科卒 鉱物資源局勤務の石油地質専門家
- ④ イヴァン (ブラジル) [Ivan Jean Ferreira Salustino]  
1956年生 北リオグランデ大学電気工学科卒 ゴーインターナショナル社の地質専門家
- ⑤ トゥーフアン (トルコ) [L. Tufan Erdogan]  
1952年生 中東工科大学地質学科 科学技術大学油層工学科卒 トルコ石油公社勤務の地質専門家
- ⑥ アモア (ガーナ) [Worlanyo Amoia]  
1956年生 ガーナ大学地質学科卒 ガーナ石油公社勤務の地質専門家

- ⑦ ビドン (中国) [Bi Dong]  
1958年生 南京大学鉱床学科卒 福建省地質鉱産局勤務の地質専門家
- ⑧ アジズ (マレーシア) [Abdul Aziz Bin Hussin]  
1951年生 マレーシア大学地質学科卒 英国アバディーン大学に留学 マレーシア工科大学準教授
- ⑨ タワチャイ (タイ) [Thawatchai Tepsuwan]  
1960年生 ソンヅクラ大学地球物理学科卒 鉱物資源局勤務の地球物理専門家 (斎藤)



沿海鉱物資源探査集団研修コースの研修員  
地質調査所正面玄関前/85 6 17

**公式訪問者** 敵は本能寺にありか 科学万博ツクバが3月16日に開催されて以来 関連する訪問者の数は増加の傾向にある。 なかでも 庄巻は5月25日 標本館見学に訪れた中国科学技術参観団296名の一行であった。 中国青島より紫羅蘭号に乗船し 茨城県日立港に上陸した中国科学技術訪問視察団911名の一部が 午前 午後の二班に別れて当所を訪問した。 外国パビリオン関係者の来訪も ソ連 エジプト フィリピン トルコ アジア開発銀行と多岐にわたり 万博終了の9月までには 更に多くの関係者の訪問が見込まれる。

この他 主な訪問者として 中国関係では 5月に地質鉱産部科学技術司方樟順司長 (院長) 一行 6月には地質鉱産部前副部長 (前次官) 塞風顧問他4名が来訪され 日中技術協力・研究交流について意見交換が行われた。 また7月には米国エネルギー省次官補フィッツパトリック女史が ロスアラモス研究所パーレイ局長他と来所され 地殻熱開発計画について討議を行った。 (桑形)